

## 平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 確かな学力を携えて、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 2 それぞれの夢に展望を持たせ、自らの力でそれを実現できる生徒を育成する。
- 3 他者の痛みがわかる、やさしく心豊かな生徒を育成する。
- 4 美化意識や規範意識を高く持ち、自己管理が出来る生活習慣を確立できる人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、考える授業」を目指した授業改善に取り組む。

ア 公開授業や研究授業、授業アンケートなどを効果的に活用し、授業改善に取り組み、各教室のディスプレイなど ICT 機器を活用した授業改善にも取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 24 年度 50%）を毎年 5%引き上げ、平成 27 年度には 70%にする。

→平成 25 年度は 52%で 5%の十分な引き上げはできず、微増に終わった。

## 2 思いやりの心を育てる

(1) 人の気持ちが理解できる志学や人権教育を計画立案する。

※対人関係に起因するトラブルを（平成 24 年度 7 件）を平成 27 年度には 0 件にする。

→平成 25 年度は 4 人（3 件）で確実に減ったが 0 にはならなかった。

## 3 心安らげる学校づくり

(1) 規範意識や美化意識をさらに醸成する。

ア 遅刻・早退・欠席はもちろん、基本的な生活習慣を確立し、清潔な美しい教育環境に徹する。

※有志による清掃活動参加率（平成 24 年度 15%）を毎年 5%ずつ増やし、平成 27 年度には在籍生徒数の 30%にする。

→平成 25 年度は考査日程や天候の影響もあり、13%にとどまった。

※全学年年間遅刻件数（平成 24 年度 6,714 件）を毎年 1,000 件ずつ減らし、平成 27 年度には 4,000 件にする。

→平成 25 年度は 4,974 件で目標をおおきく上回った。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校への帰属意識を高める。

ア 部活動やボランティア活動を通じて、集団の中で活動することの重要性を見出さす。

※部活動参加率（平成 24 年度 38%）を毎年 5%ずつ引き上げ、平成 27 年度には 55%にする。

→平成 25 年度は人数に変化はないが率は 53%と早くも平成 27 年度目標に近づいた。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒たちの約 70%が「クラスは楽しい」と感じている（昨年度同様）、また、授業がわかりやすいとの回答は昨年度に比べ 6 ポイント上昇した。これは、授業アンケート結果が前期よりも後期に好結果が出ていることから、それぞれの教員が工夫し授業改善がなされた成果と判断する。今後校内授業研究や授業見学の充実を図り、目標数値を達成したい。</p> <p>部活動も活発と感じる生徒が 9 ポイント上昇した。生徒会を中心に部活動を奨励し、実際に加入率も上がり、今年度の目標に達した。</p> <p>人権に関しても、本校は学ぶ機会が多いという回答が昨年より 14 ポイント上昇した。人権教育推進委員会を中心に、現在社会的に問題になっている SNS に関する人権 HR を初め外部講師を招聘した講習や様々な人権教育を行った成果と考える。ただ、4 割の生徒は学ぶ機会が多いとは感じていないようだ。回数もそうだが、より内容の充実を図り、自他の存在を認め、思いやりのある人間を育成していく。</p> <p>防災教育においても、14 ポイント上昇した。年 2 回の避難訓練に加え、9 月 5 日の大阪府の防災訓練時にも実施、また備蓄米の試食会も行った。</p> <p>校内清掃もきちんとしていていると感じている回答が 10 ポイント上昇し、3 分の 2 の生徒がそのように感じている。保健部を中心に清掃の啓発活動を活発に行った結果と考える。より、美化意識の醸成を図っていきたい。</p> <p>保護者に関しても生徒の回答と同じ観点が上昇しているが、その他には、服装・頭髪の指導がきちんとされているとの回答が昨年度より約 10 ポイント上昇し約 7 割に達した。生徒指導部や担任を初め全教員の地道な指導のおかげで茶髪等がなくなり、保護者は勿論のこと近隣の中学校や地域の方からの評価が大きく上昇した。また、遅刻も大幅に減少し、これらを見ても、生徒の規範意識が少しずつ醸成されてきたようだ。</p> <p>最後に、教育相談に関しても約 10 ポイント上昇し 6 割を超える保護者が充実と回答。SC を活用した教育相談体制も徐々に充実してきた成果と考える。</p>	<p>《第 1 回：平成 25 年 6 月 6 日》</p> <p>先生方の地道な指導で生徒が落ち着いている。頭髪もきちんとできている。身なりがきちんできると授業にも取り組めるので大切なことである。</p> <p>学力向上には、校内研究授業等を実施して教師の授業力向上が不可欠である。</p> <p>また、キャリア教育をより充実させ、個々の目標を具体化させるようにするべき。</p> <p>《第 2 回：平成 25 年 10 月 17 日》</p> <p>地域に開かれた学校、地元を活性化する人材の育成を望む。現在は、こども・福祉エリアの授業で保育所等に行き学んでいるが、ビオトープ地を再利用して園庭のようなものを作って開放するのも一つのアイディア。また、大学は学生を外に出して教育させたいと思っている。連携のハードルは低い。今の学生はバリバリ働くよりも役に立ちたいと思っているので連携を模索してはどうか。</p> <p>《第 3 回：平成 26 年 1 月 30 日》</p> <p>授業アンケート結果をフィードバックし、授業改善に努めたことは非常に良かった。また、人権教育の内容が徐々に充実してきている。</p> <p>学校が落ち着いてきている大きな要因の一つに、頭髪や服装指導、遅刻指導を地道にしてきた生徒指導が挙げられる。保護者や地域、泉南市の中学校から信頼が篤くなっているのは秀逸である。</p> <p>その他、防災教育・教育相談についてもかなり充実している。</p> <p>今後に向けて、進学実績をもうワンランク上げるよう努力してほしい。近畿大学を常時進学させる学校にしてほしい。</p> <p>地域に根ざし、地元へ人材を輩出し、活性化してほしい。中学校と連携し合同で地域のために何かするのも良いのではないかと。</p> <p>一斉配信だけで学力を上げることは考えない方がよい。学習活動や規範意識に関心を持ってもらえばよし、気づいてくれたらよしとする。それによって先生の声に耳を傾けてくれるようになる。服装や頭髪は地道な指導が実を結びつつある。自己診断アンケート結果を見て、教員が頑張っているのが分かる。</p> <p>中学校と連携し合同で地域のために何かするのも良いのではないかと。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、考える授業」を目指した授業改善  (2) それぞれの進路実現のサポート（指定校推薦制度にばかり頼らない進路選択）	○教務部主催による授業力向上週間のさらなる発展、授業方法などの校内研修の実施 ○進路指導部とガイダンス室による基礎学力の定期的な測定（外部模試の実施）とその結果の教科などへのフィードバック ○定期考査前補習や進学希望者のための補習実施 ○授業アンケート結果を利用した授業改善への効果検証 ○授業力向上週間を中心とした授業の相互見学や研究授業の実施 ○外部への授業公開 ○「志学」を活かしたキャリア教育の展開 ○学習発表会を使用した地域への成果発表の公開 ○大学・短大・専門学校との連携推進 ○配慮を要する生徒への評価方法の研究と支援 ○家庭学習を促す（課題の利用など） ○「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」による各教室のディスプレイを利用した授業支援や一斉進路指導	・外部教育産業等の公開模試による難関大学合格可能性のある生徒数を5人以上に（平成24年度各学年4人） ・特講生徒数を全学年二桁に（平成24年度3年数学を除き一桁） ・進路未決定者（進学浪人を含む）を20人以下に ・家庭での学習時間を平均1時間に（平成24年度30分以下） ・公務員就職2人（平成24年度自衛隊を除き1人） ・教室に設置したディスプレイの活用について、一斉配信コンテンツ更新を最低月1回、教科での最低年1回利用。	・今年9月のデータによると、難関大学合格ゾーンに新2年で6人、新3年でその上の超難関ゾーンに1人となっている。（ちなみに4月データでは、難関ゾーンに新3年5人、新2年2人であった。）（国数英総合）（△） ・今年度特講生徒数はのべ19人であったが、来年度希望者数は新2年新3年あわせて33人と増加している。再来年はさらに受講しやすい形態に変更することが決まっており、さらに増加することが予想される。（△） ・最終進路未決定者は9人（4.9%）である。（◎） ・家庭学習時間は、9月データで平均新2年18分、新3年で10分という結果で昨年と変わっていない。（×） ・公務員は現時点では自衛隊だけで、目標を達することができない見込みである。（×） ・ディスプレイの活用は、一斉配信については週に一度の更新ができ、数学・芸術を除き各教科での利用は盛んに行なわれた。（○）
二 思いやりの心を育てる	(1) 志学、キャリア教育を中心とした総合的な学習の時間の充実  (2) 3年間を見通し、今必要な人権教育の再認識	○総合的な学習の時間が同時間に実施することのメリットを最大限活かした教育計画の構築 ○過去の人権教育にとらわれず、新しい発想で今最も必要性のあるジャンルから見つめなおす人権教育 ○「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」による各教室のディスプレイを利用した志学や人権教育ビデオの活用	・人権HRを年3回以上、職員人権研修を年2回以上実施（平成24年度人権HR2回、職員研修1回） ・学校教育自己診断による生徒の学校満足度を80%に（平成24年度70%）	・生徒の人権HRは今年度3回、職員人権研修も3回行うことができた。（視覚障がい、認知症、いじめ防止、SNS利用、…）（○） ・自己診断による満足度（クラスは楽しいか？）では、今年も69%で昨年と変わらず目標の80%に近づかなかった。（×） しかし、毎年卒業生に行なっている普通科総合選択制生徒アンケートでは、70.9%（H23）→79.1%（H24）→81.9%（H25）と着実に満足度が増加している。（○）
三 心安らげる学校づくり	(1) 「規範意識や美化意識の高い学校」を目指す  (2) 「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の活性化」  (3) 自分の体を大切に作る意識づくり	○登下校指導による通学マナーの向上（継続） ○昼食後歯磨きの薦め ○服装頭髪一斉指導の実施（継続） ○授業遅刻撲滅のため、「チャイム時着席」指導の徹底（継続） ○考査前呼び出し指導の充実（継続） ○トイレ清掃を含めた学校内外美化活動の充実（継続） ○清掃活動の充実、歯磨きスペースの活用促進など生徒保健委員会のさらなる活性化 ○式典（始業式・終業式）での校歌斉唱 ○「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」による各教室のディスプレイを利用して積極的な学校生活を促す。 ○性感染症防止教育などの推進	・歯磨きスペースを活用する生徒の割りあいを5%以上とする。 ・部活動参加生徒率を43%以上に（平成24年度38%） ・停学を伴う特別指導案件を36件以下に（平成24年度42件） ・全学年総年間遅刻件数を5,000件以下に（平成24年度6,714件） ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を在籍数の20%に（平成24年度15%）、トイレ清掃参加者を20人以上に（平成24年度暴風雨警報発令により中止） ・校長室だより以外でのホームページを少なくとも月1回更新 ・一斉配信用啓発コンテンツ（特別活動や美化活動など）の開発	・歯磨きスペース活用生徒はまだまだ少なく3.3%（21人）であった。（×） ・部活動参加率は53%で、特に1年の参加率が高い。（○） ・停学を伴う特別指導件数は大幅に少なくなり、平成25年度は最終で26人である。（◎） ・全学年総年間遅刻件数は4,974件（授業遅刻を含む）。（○） ・通学路清掃は、第1回第2回共に12.6%（80人）、トイレ清掃は生徒8人の参加に留まった。（×） ・校長室だよりは月2回以上更新できたが、それ以外は月1回以上ほど更新できなかったが、来年度からのHPはかなり更新しやすくなったためより頻度が多い更新が見込まれる。（△） ・一斉配信システムを利用した啓発活動は多方面に渡り、コンテンツもかなり開発でき利用が進んだ。（図書館利用、ボランティア案内、防災教育、人権教育、通学路指導、…）